様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２３ 日現在

機関番号：３２４０８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ０２７９８

研究課題名（和文）多文化共生を促す英語ドラマ・ワークショップ手法の確立と普及

研究課題名（英文）English drama workshop methods to promote multicultural coexistence

研究代表者
塩沢　泰子（Shiozawa, Yasuko）

文教大学・国際学部・教授

研究者番号：９０２６５５０４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：英語教育にドラマ手法を活用する様々な手法を研究・実践し、学会や地域連携イベントなどで普及に努めた。特に絵本や民話などのStory Tellingをベースに、要所要所に即興のアクティビティーを入れてテーマを深化・進化させる手法を種々開発し、学生とともに小学生を対象にワークショップを毎年数回実施し、マニュアルを作成した。"The Little Prince", "The Selfish Giant"を始め、創作童話もベースにした。また、紙芝居など創作活動との融合の実践研究も進めた。また、パンデミック後に劇鑑賞を通して英語力を養成するTIE(Theatre in Education)も再開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、紙芝居や演劇の専門家の指導を受けながら、英語教育にドラマ技法を活用する手法を考案し、幅広い学習者対象に英語ワークショップを実施してその効果を検証した。Story tellingにおいては身体知を使って表現活動やグループで話し合うことにより、学習者が物語を知的レベル、情意レベルでより深く理解し、共感力や協働力を高めることが示唆された。登場人物の立場に立つタスクなどのドラマ手法は問題そのものに気づく洞察力を促し、ひいては異文化共生に資する。学習者が場面に応じた英語表現をドラマ手法により自然に身につけるのは言うまでもない。ワークショップの実施は地域とのかかわりを深めるのにも貢献している。

研究成果の概要（英文）：We developed a series of English workshops incorporating storytelling and drama techniques such as Tableau, Hot seating, Thought Tracking, Conscientious Alley, etc. The stories we used were "The Little Prince", "The Selfish Giant", and so on. We conducted workshops for local children as well as ones for English teachers. We also taught college students how to plan and facilitate workshops. The workshops helped participants deeply understand the stories and reflect on their thoughts and behavior. The workshops for the children worked well and received high reputation. In addition, integrating art into English workshops was another project we have explored. Kamishibai workshop via zoom suggested a remarkable possibility to enhance collaboration and motivation even during the pandemic. After the pandemic, we restarted TIE (Theatre in Eduation); inviting a theatre group to perform an interactive play along with a workshop enhanced the participants' motivation to learn English greatly.

研究分野：英語教育と応用演劇

キーワード：英語教育　ドラマ　ストーリーテリング　ワークショップ　即興　表現力　洞察力　芸術活動

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

少子高齢化による孤立、移民等外国ルーツの人々の増加による他者との摩擦、SNS を含めたいじめ、(非正規労働者問題等による)経済格差、地域・伝統消滅など、様々な分野、レベルで問題が顕在化し、異なる価値観、文化を持つ人々を時空を超えて「つなぎ」、問題解決を図る必要性が叫ばれている。

また、災害多発、政情不安や世界各地での紛争等による予測不能な将来、社会不安が人々の心を蝕んでいる。特に若者にいかに希望と自信を持たせるかはあらゆる成長段階において極めて重要な課題である。一方、IT や AI の急速な進歩により、人間の価値や能力が問われ、主体性や共感力、といった非認知能力の養成が注目されている。

筆者らのこれまでの科研研究により、「ドラマ教育」にはコミュニケーション力に加え、社会性を高める可能性のあることが判明した。さらに芸術活動を融合することにより、協働力や自己肯定感が高まることも示唆された。他方、英語教育においては、共通語としての英語での対話力養成を目指して母語も活用する多言語教育が注目されている。

国内では母語によるドラマ教育については研究・実践されているが、学校教育が中心であり、しかも演劇や芸術を発表する機会は減少しつつある。授業の中での活用も限られている。

一方、海外ではインプロ（その場で相手の言動を受けてポジティブに対応する能力を育む）は教育のみならず企業研修にも大いに活用されている。2017 年に筆者らが参加した世界的なドラマ教育学会の IDIERI ではドラマ手法が福祉の現場や医療での活用事例や手法が報告されていた。また、「世界劇場会議」では観劇やドラマワークショップが地域活性につながっていることが話題となっており、国内では岐阜県可児市が演劇など芸術活動で地域の人々をつなぎ、地域を活性化する実践が進んでいた。しかしその後、パンデミックにより芸術鑑賞の機会は激減した。また、人形劇や紙芝居といった、地域で脈々と続く芸術活動の教育効果を論じた研究はほとんどなく、このようなドラマ教育と芸術活動を外国語教育に活かす試みは筆者らの研究以外には報告されていない。

２．研究の目的

英語教育については、昨今、translanguaging（学習者が持つ複数の言語システムを活用する）という考え方が注目されている。また、英語の母語話者が 4 億に対し、共通語として英語を使う人の数は 14 億と言われ、発音や語彙も多様性がある。したがって、共通語として通じる英語(ELF)を使える能力を身に付けさせる必要がある。すなわち多文化、他民族の環境で英語を中心としたコミュニケーションを取らざるを得ない状況に置くことが必要で、完璧でなくても「臆せず」やり取りをする自己肯定感を養成しなければならない。

筆者らはこれまでの科研研究で次のことを明らかにしてきた。

- 「ドラマ教育」により、英語を使うことへの抵抗感が減じる
- 「社会人基礎力」のうち、「前に踏み出す力」と「チームワーク」が上昇すると認識されている。
- ドラマを観ることと観劇の前後にドラマ手法で活動をすることにより、理解が深まる。

また、上記の成果をもとにドラマを活用して社会問題を考え、議論するテキストを作成し、大学の授業で活用している。

本研究では、これまでの実践研究の成果や課題を踏まえ、地域の教育機関や公共施設、芸術関係者などと連携し、ドラマ手法に関する研究実践を進化・深化させる。つまり、ドラマワークショップに地域に根付いた人形劇や紙芝居といった芸術創作活動を加え、母語や習熟度の異なる集団を対象にワークショップを実施することにより、英語を中心とした対話力と新たな価値を創出する力を養成する手法を作り、検証する。また、具体的な英語学習のためのドラマワークショップのマニュアルを作り、広めることも目的のひとつである。

３．研究の方法

大学の授業や大学間の合同ワークショップを通してドラマ手法を実践・検討することに加え、今回は地域との連携で対象を広げるとともに手法を開発・研究した。

研究開始当初は対面でのワークショップを計画していたが、研究初年度の 2020 年度よりパンデミックにより対面ワークショップが 3 年間ほど開催できない事態に陥り、方法や計画の変更を迫られた。そこで、2020 年度の大学合同ワークショップは zoom を使って紙芝居ワークショップを行った。指導には紙芝居の実践家を招き、参加者としては筆者らの指導する大学生に加え、主にコメンテーターとして台湾の協定校の学生、さらには芸術関係の大学教員を招き、2 日間合計 6 時間のオンラインワークショップを行い、Google Form でアンケートを取り、参加者のコメントを収集し、分析した。

また、2020 年度より研究代表者の所属大学で地域連携事業の一環として小学校３，４年生の児童を対象に英語のワークショップを年に 2 日、計 4 回実施することとなり、参加者や保護者へのアンケート、ファシリテーターの学生へのアンケートなどを実施し、成果や問題点を洗い出し

ている。また、小学生対象のワークショップは童話や昔話をもとにした Story Telling を中心としたもので、入念に準備し、事後にマニュアル化している。
　演劇鑑賞をもとにした英語学習についての研究実践も 2023 年度に再開し、授業や地域連携事業の一環として実施して効果を探っている。参加型の演劇で大いに学習動機が高まることが確認されている。

４．研究成果
　Zoom を使っての英語紙芝居制作の実践研究については、詳細な報告が Scenario Journal に掲載されている。Zoom の活用により、国内外の学生が紙芝居制作や発表、評価に積極的に関わり、限られた接触、交流の中で不安を感じながらもやりぬく、Negative Capability を身につけたと示唆された。
　小学生対象の Story Telling ワークショップはオーストリアで開催された国際ドラマ教育学会である、IDEA で口頭発表した。また、その手法は大学英語教育学会(JACET)の全国大会のワークショップで紹介した。

Paper:
“Mixing paper and digital: 2020 online summer English drama *kamishibai* workshop”
Scenario Journal Vol. 17, No. 1, pp. 68-87, 2023
Eucharia Donnery, Yasuko Shiozawa, Yuka Kusanagi, Aiko Saito
DOI: https://doi.org/10.33178/scenario.17.1.4
https://journals.ucc.ie/index.php/scenario/article/view/scenario-17-1-4

日本国際教養学会(著)The Intersection of Arts, Humanities, and Science: Fifteen Selected Passages for University Students (Second Edition)『大学生のための国際教養―第２版―』東京: 成美堂 2024.（草薙優加 執筆担当：第２章 The University and Civic Engagement: A Brief History. pp16-21）2023/3/15　ISBN: 978-4-7919-7297-5

ワークショップ：
Shiozawa, Y., Kusanagi, Y., & Saito, A. Drama workshop “The Little Prince”: Understanding cross-cultural issues” The 62nd JACET International Convention of Japan Association of College Teachers（東京都 明治大学）2023 年 8 月 29 日

Presentation:
“Gateways between worlds new and old: Japanese folk tale Urashima Taro”
The 10th International Drama in Education Research Institute. July, 2022
Shiozawa, Kusanagi, Donnery & Saito

“Linking college, children, and community via storytelling workshops”
IDEA Austria 2024 (The 25th Drama/Theatre Education in Austria March 24th, 2024)
Yasuko Shiozawa and Yuka Kusanagi

さらに、大学主催のイベントとして下記を開催し、ＨＰで報告した。

「観客も演じる Dr Jekyll and Mr Hyde 公演」
摂南大学国際学部ＨＰ　https://www.setsunan.ac.jp/intlstudies/w/category/news/

「０から English」
文教大学と足立区の連携事業として下記を含め、ＨＰ上に５回掲載
https://www.bunkyo.ac.jp/news/archive/2024/story_42919.php

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 塩沢泰子、草薙優加、 ドネリー・ユーケリア	４．巻 4
２．論文標題 複数言語使用を認める「英語人形劇ワークショップ」の学び ―参加者の声から探る―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 International Association of Performing Languages Journal Online	６．最初と最後の頁 1，18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Eucharia Donnery, Yasuko Shiozawa, Yuka Kusanagi, Aiko Saito	４．巻 17-1
２．論文標題 Mixing paper and digital: 2020 online summer English drama kamishibai workshop	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Scenario Journal	６．最初と最後の頁 68，87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.33178/scenario.17.1.4 https://journals.ucc.ie/index.php/scenario/article/view/scenario-17-1-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　0件／うち国際学会　6件）

１．発表者名 Shiozawa, Kusanagi, Donnery & Saito
２．発表標題 Gateways between worlds new and old: Japanese folk tale Urashima Taro
３．学会等名 The 10th International Drama in Education Research Institute（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 草薙優加
２．発表標題 他者を想うことで自己を知る―多文化・異文化理解教育の実践
３．学会等名 日本国際教養学会第11回大会（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 塩沢泰子
２．発表標題 「星のおうじさま」を題材としたワークショップ
３．学会等名 大学英語教育学会（JACET)オーラル・コミュニケーション研究会　2022年度特別研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 草薙優加
２．発表標題 配信型ワークショップの試み―ダイバーシテイと異文化の体感的理解に向けて
３．学会等名 大学英語教育学会（JACET)オーラル・コミュニケーション研究会　2022年度特別研究会
４．発表年 2023年

１．発表者名 齋藤安以子
２．発表標題 Warming up group work
３．学会等名 配信型ワークショップの試み―ダイバーシテイと異文化の体感的理解に向けて
４．発表年 2023年

１．発表者名 齋藤安以子
２．発表標題 オーディション番組出場パフォーマーへの審査コメントの言語分析：パフォーマー化する審査員たち
３．学会等名 日本英文学会関西支部　第17回大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 Shiozawa, Kusanagi, Donnery & Saito
２．発表標題 Gateways between worlds new and old: Japanese folk tale Urashima Taro
３．学会等名 The 10th International Drama in Education Research Institute（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Shiozawa, Kusanagi, Donnery & Saito
２．発表標題 Online Inter-College Picture Storytelling Workshop
３．学会等名 The 3rd JAAL (Japan Association of Applied Linguistics)（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Shiozawa, Y., Kusanagi, Y., & Saito, A.
２．発表標題 The Little Prince: Understanding cross-cultural issues
３．学会等名 The 62nd JACET International Convention of Japan Association of College Teachers（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Yasuko Shiozawa and Yuka Kusanagi
２．発表標題 Linking college, children, and community via storytelling workshops
３．学会等名 The 25th Drama/Theatre Education in Austria（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

大学主催のイベントとして下記を開催し、ＨＰで報告した。 「観客も演じる Dr Jekyll and Mr Hyde公演」 摂南大学国際学部ＨＰ　https://www.setsunan.ac.jp/intlstudies/w/category/news/ 「０からEnglish」 文教大学と足立区の連携事業として下記を含め、ＨＰ上に5回掲載 https://www.bunkyo.ac.jp/news/archive/2024/story_42919.php 上記の企画に科研費を活用した。

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	草薙　優加 (Kusanagi Yuka) (50350335)	鶴見大学・文学部・教授 (32710)	
研究分担者	齋藤　安以子 (Saito Aiko) (60288967)	摂南大学・国際学部・教授 (34428)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
社会問題を掘り下げるドラマワークショップ	2021年～2021年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関